

インフォデミック：原因と対策についての解説

解説作成者
伊沢 亘洋¹
榮福 真穂²

本解説の要約

現在、COVID-19に関連する大量の情報が溢れる中、大量の誤情報も同時に拡散されています。WHOはこうした事態を「インフォデミック」と名付け、オックスフォード英語辞典は新しく“infodemic”の項目を追加しました。その中でインフォデミックは「危機、論争、または事件に関連する、多様で、しばしば根拠のない情報が急増すること」と定義されています。

誤情報が生み出され、拡散されるのにはいくつか要因があります。例えば、ソーシャルメディア上では、検索履歴や閲覧履歴が深層学習によって分析され、利用者の好みに合う情報だけが提示されるようになり、好みに反する情報が自動的に遮断されることがあります(フィルターバブル)。こうした偏った情報環境の中では、誤った情報を正しいと信じて拡散しやすくなります。

ではこうした誤情報に対してどのような対策をとればいいのでしょうか。近年、ワクチン接種理論を誤情報に応用するアイデアが提案されています。あらかじめ誤情報になれ親しみ、そのパターンに習熟することで、いざ日常生活で誤情報を受け取ったとしても、正しく判断することができるようになります。

1 インフォデミックとは

現在、COVID-19によって、ネット上や実世界で誤った情報が溢れかえっています。この誤った情報には、単に誤解によって生じた誤った情報だけでなく、経済的・政治的利益を得るために誰かが意図的に流す偽の情報も含まれます。こうした事態をWHOは「インフォデミック」と名付け、注意を呼びかけています³。

今年4月には、オックスフォード英語辞典に“infodemic”という単語が収録されました⁴。この用語解説の中では、

危機、論争、または事件に関連する、多様で、しばしば根拠のない情報が急増すること。こうした情報は、ニュース、オンライン、およびソーシャルメディアによって迅速かつ制御不能な仕方で広まり、国民の根拠のない憶測、不安を増加させると考えられている。

¹ 京都大学文学研究科科学史科学哲学研究室博士1年 連絡先:koyomikoyo@gmail.com

² 京都大学文学研究科西洋哲学史研究室博士1年 連絡先:uwabata.maho@gmail.com

³ WHO “Managing the COVID-19 infodemic: Promoting healthy behaviours and mitigating the harm from misinformation and disinformation” 更新日時: 2020/9/23, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.who.int/news/item/23-09-2020-managing-the-covid-19-infodemic-promoting-healthy-behaviours-and-mitigating-the-harm-from-misinformation-and-disinformation>

⁴ Oxford English Dictionary “New words list April 2020” 更新日時:2020/4, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://public.oed.com/updates/new-words-list-april-2020/>

とされています⁵。用語解説で、その有害性を明記している点、異例の収録の速さからも、インフォデミックが現在生じている喫緊の問題であるといえるでしょう。

誤情報が伝わることで、人々が医療検査やワクチン接種などを拒むようになり、結果として健康に大きな被害が生じます。また、健康被害の他にも、誤情報によって、紛争、暴力、人権侵害の可能性が高まります。現在、WHOをはじめとして様々な機関が誤情報を管理し、こうした被害が生じないように努めています。

本解説ではまず、COVID-19に関わるインフォデミックと、他のケースに関わるインフォデミックについて紹介します。次に2章ではインフォデミックが生じる原因についていくつか代表的な論点を紹介します。最後に3章でこうした原因を踏まえてどのようにインフォデミックを管理できるのかについて、現状あるいくつかの議論を紹介します。

1-1 COVID-19によって現在生じているインフォデミック

COVID-19によって様々なインフォデミックが生じています。以下いくつか事例を紹介します。

1)誤解から陰謀説が生じてしまうケース

現在、5G回線が人の免疫を抑える効果があるために、COVID-19が拡散しているという「5G陰謀説」が流れています⁶。アメリカ、テネシー州では基地局アンテナが少なくとも5件放火されており、10万ドル以上の被害が出ています。

2)文化的背景から誤情報が生じてしまうケース

マダガスカルの大統領は自国で開発されたCOVID-ORGANICという薬(伝統的薬草治療)の支持を表明しています⁷。この薬は学校の子供達に提供されており、このような煎じ薬はマダガスカル伝統的な治療法でした。WHOは治験を行ってから使用するべきだと勧告していますが、製薬企業側は、「この製品を使用し、慢性疾患を患っていない大多数の人々は完全に回復しました。この病気に対するこの治療法があることを誇りに思います。マダガスカルの人々がこのような煎じ薬を使用することが私たちの文化です...それが機能している限り、臨床試験は必要ありません。」としています。

3)誤情報だとわかっても被害が生じるケース

日本では、トイレットペーパーが品不足になっているというデマ情報が一部SNSで拡散されました。このデマ情報を聞いた一部の人が、トイレットペーパーの買い占めを行ったため、品不足が各地で現実化しました。「日本トレンドリサーチ」が3月に行ったアンケートによると、買いためた9割の人が品不足するという情報がデマだとわかっているが購入した、と回答したということです⁸。

こうした問題が生じてしまった責任は市民だけにあるわけではありません。最初のSNS上のデマ情報を、マスメディアが市民が「パニック」に陥っているとして報じたことで、デマ情報がさらに拡散したということも指摘されています⁹。デマ情報を拡散してしまったメディアの責任も問われるべきでしょう。

⁵ Oxford English Dictionary “infodemic” 更新日時:2020/4, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://oed.com/view/Entry/88407009>

⁶ WIRED「米国にも「5Gが新型コロナウイルスの感染を加速」という偽情報が広がり、アンテナが破壊される事件が起きている」 更新日時:2020/6/10, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://wired.jp/2020/06/10/the-dhs-prepares-for-attacks-fueled-by-5g-conspiracy-theories/>

⁷ BBC News “Madagascar president’s herbal tonic fails to halt Covid-19 spike” 更新日時:2020/8/13, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.bbc.com/news/world-africa-53756752>

⁸ 真鍋 義明「人はなぜ噂に踊らされるのか」、『産経新聞』、2020年5月9日、p. 12

⁹ 佐藤 卓己「デマで試されるメディアの信頼性」、『産経新聞』、2020年4月23日、p. 16

4)感染者への恐れからデマが生じるケース

3月下旬に、長野県飯田市で、東京から帰省中の男性の感染が確認され、男性の立ち寄り先を巡るデマが流れました¹⁰。訪ねたとされる8店舗のリストがデマには含まれていましたが、実際に男性が尋ねたのは1店舗でした。こうした店のリストは拡散され、お店の「口コミ」でもデマが拡散していきました。こうしたデマが生じた背景には、飯田市で初の感染者ということで、市民には重大な関心ごとだったということがあります。

5)既存の陰謀論と結びついて生じるケース

著名人をターゲットにした既存の陰謀論からCOVID-19陰謀論へと発展するケースもあります。ビル・ゲイツ氏の例が有名です。ゲイツ氏と新型コロナウイルスを結びつける説には様々なバージョンがありますが、最も主流になったのは次のようなものです。3月19日、Biohackinfo.comというウェブサイトは、ゲイツ氏が注射されたマイクロチップや量子ドット・スパイ・ソフトウェアを使って人々を監視するための策略として、コロナウイルス・ワクチンを使用しようと計画していると虚偽の主張をしました。ロジャー・ストーン氏（ドナルド・トランプ米大統領の元顧問）はこの説を支持し、ゲイツ氏が資金提供していたコロナウイルスワクチンは絶対に信用できないとラジオ番組でコメントしました。この説を主張する動画はYoutubeで200万回近く再生され、またその記事はFacebook上で100万人近くの人に「いいね！」され、シェアされました¹¹。

一部のネットコミュニティでは、「ビル・ゲイツは人口減少を目論んでいる」ともともと信じられてきました。COVID-19陰謀論者は、彼とウイルスとの薄い繋がりを拡張することで、そうしたコミュニティにCOVID-19陰謀論を信じさせることに成功しました¹²。

1-2 COVID-19以外によって生じたインフォデミック

インフォデミックという言葉自体は今回のコロナ禍で生まれた言葉ですが、その現象自体は昔から知られていました。以下にいくつか事例を紹介します。

1)企業が自社の利益のために誤情報を流そうとするケース

アメリカのMercola社は自社の自然健康製品の販売を促進するために、自社のウェブサイトで「ビタミンCの補給は、はしか予防のための実行可能な選択肢です」「インフルエンザにかからなくなるビタミンDを摂取することで、ワクチン接種を回避しよう」といった誤情報を流しています¹³。また、国立ワクチン情報センターなど反ワクチン運動を行う団体に400万ドル支援しています。現在アメリカのワクチン接種率は減少しており、はしかの感染者は過去25年で最大となっています。

2)一つの偽動画から誤情報が拡散するケース

パキスタンにおいて、ナセル・モハメド氏がポリオワクチンを接種することで意識を失い、入院しているとする動画を流しました。この動画は子供に失神する演技をさせて撮影し

¹⁰ 赤田 康和「不安が土壤に 鍵は情報公開」、『朝日新聞』、2020年5月18日、朝刊、p. 7

¹¹ nature “The epic battle against coronavirus misinformation and conspiracy theories” 更新日時: 2020/5/27, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.nature.com/articles/d41586-020-01452-z>

¹² WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://youtu.be/e2mSnH7Xzgs>

¹³ The Wahington Post “A major funder of the anti-vaccine movement has made millions selling natural health products” 更新日時:2019/12/21, 最終アクセス日:2020/10/31, https://www.washingtonpost.com/investigations/2019/10/15/fdc01078-c29c-11e9-b5e4-54aa56d5b7ce_story.html

た偽の動画でした¹⁴。政府は記者会見などの通常的手段によって情報を正しく修正しようとしたが、もはや制御不可能な状況になってしまいました。

3) 指導的立場の人から誤情報が拡散するケース

パキスタンのあるモスクで、ポリオワクチンによって子供が危険にさらされているとアナウンスされました¹⁵。これにより45000人の子供が病院へ健康診断を受けに、親に連れて行くという集団パニックが生じました。怒った人々は診療所を襲い、警官1名と医療従事者1名が亡くなりました。他のボランティアスタッフも殴打されたり、嫌がらせを受けたため、数ヶ月後にはワクチンキャンペーンは中止となりました。

4) 誤情報から、人種差別が生じるケース

インフォデミックは現代特有の問題ではありません。14世紀にヨーロッパで流行したペストが流行した際、その原因を誰も突きとめることができませんでした。こうした中で、「ユダヤ人コミュニティは他のコミュニティよりもペストの犠牲者が少ない」ということから、「ユダヤ人によってペストが起きている」という陰謀説が広まり、後のユダヤ人虐殺の一因となったということが知られています¹⁶。ペストはヨーロッパ以外にも、北アフリカ、中東でも生じましたが、そこでも同様に主流派民族が他の民族を非難する傾向があったことが指摘されています。

2 インフォデミックはなぜ生じるのか

前章では現在までに生じてきたインフォデミックの事例をいくつか紹介しました。2章ではこうしたインフォデミックが生じる原因について紹介していきます。

2-1 心理的要因

1) 価値観の問題

人によって、どのような道徳的価値を重視するかは異なります。例えばある人は公平さを重んじる価値観をもち、ある人は忠誠を重んじる価値観を持つかもしれません。こうした中で、自由または純潔さを重んじる価値観の人はワクチン忌避の傾向を持つことが指摘されています¹⁷。ここで純潔さとは、自然/不自然の区別にこだわる価値観のことです。この価値観

¹⁴ DAWN “Peshawar police arrest man alleging anti-polio vaccines cause children to faint, die” 更新日時:2019/4/23, 最終アクセス日:2020/10/31,

<https://www.dawn.com/news/1477890/peshawar-police-arrest-man-alleging-anti-polio-vaccines-cause-children-to-faint-die>

¹⁵ WHO “Rustam Haydarov - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/32,

https://www.youtube.com/watch?v=IAAdG3-Pevnl&feature=emb_logo

詳細な内容はこちらを参照。

Reuters “Monstrous rumors stoke hostility to Pakistan's anti-polio drive” 更新日時:2019/5/3, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.reuters.com/article/us-pakistan-polio-idUSKCN1S9051>

¹⁶ AXIOS “Pandemic misinformation throughout the ages (it's not a new thing)” 更新日時:2020/5/14, 最終アクセス日:2020/10/31,

<https://www.axios.com/pandemic-misinformation-history-coronavirus-black-death-bc7d111a-9199-4d73-9ac0-c1c089d1914a.html>

¹⁷ WHO “Saad Omer - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31,

https://www.youtube.com/watch?v=uwy_SMZ3zN0&feature=emb_logo

を持つ人は、ワクチン接種の問題については、子供にワクチンを接種して免疫をつけさせるよりも、自然にウイルスに触れさせて免疫をつけさせることを好ましいと考えます。

こうした自由や純潔さという価値観を持つ人は、コロナ禍において、「自粛」のような自由の制限や、ワクチン接種という意図的な免疫の獲得という情報に対して反発しやすくなります。

2)不幸が生じた原因を探してしまう

Voxのある記事で、陰謀説を信じてしまったヤング氏の体験談が紹介されています¹⁸。ヤング氏の夫はある日突然、脳腫瘍を患い、視力、短期記憶、自分で生活する能力を失ってしまいました。彼女は、最初悲しみにくれてベッドにこもっていましたが、そのうち、なぜこのようなことが起きてしまったのかについて原因を探そうになりました。この責任の所在を探し求める怒りの感情が彼女の精神的慰めになり、ついには陰謀説を信じてしまったということです。

3)数字よりもナラティブに影響を受けてしまう

人は確率ではなくナラティブによって影響を受けます¹⁹。たとえワクチンによって1000倍罹患率が減るといような定量的な数字を示されたとしても、「もしワクチンを打って、子供が副作用になってしまったときにとっても後悔するだろう」といようなナラティブに影響されて、ワクチンを拒否するということがあります。

4)独自の信念体系

人は誰でも、自らの信念体系にしたがってものごとを理解します²⁰。例えば、ネパールでの公衆衛生事業を行った際には、清潔な水や手洗いの習慣が病気のリスクを軽減すると説明しました。しかし彼らには病気についての独自の信念体系があるため、受け入れてもらうには時間がかかったということがいわれています。また、2014年の西アフリカにおけるエボラ対策の際には、彼らの宗教的儀礼がエボラ拡散の一因となっていることを伝えました。彼らのリーダーは理解したものの、リーダーは、人々への説明は彼ら自身の信念体系にしたがって行うことを望みました。

こうした場合には、相手がどのような信念体系を持っているかを理解し、情報の伝え方を吟味する必要があります。このことは陰謀論を信じる人を相手にするときにも重要になります。

5)利用可能性バイアス

人は記憶として思い出しやすい情報に特に影響を受けます。こうした現象を「利用可能性バイアス」と言います。例えば、都会と田舎では、外出などの自粛を行うかどうかを決める際の基準が異なります²¹。これは都会は全体の死亡率などの増減に反応して自粛を行うのに対して、田舎はとりわけその地域内で周りの人がどれほど亡くなっているかに応じて自粛を行うからです。

6)バックファイア効果

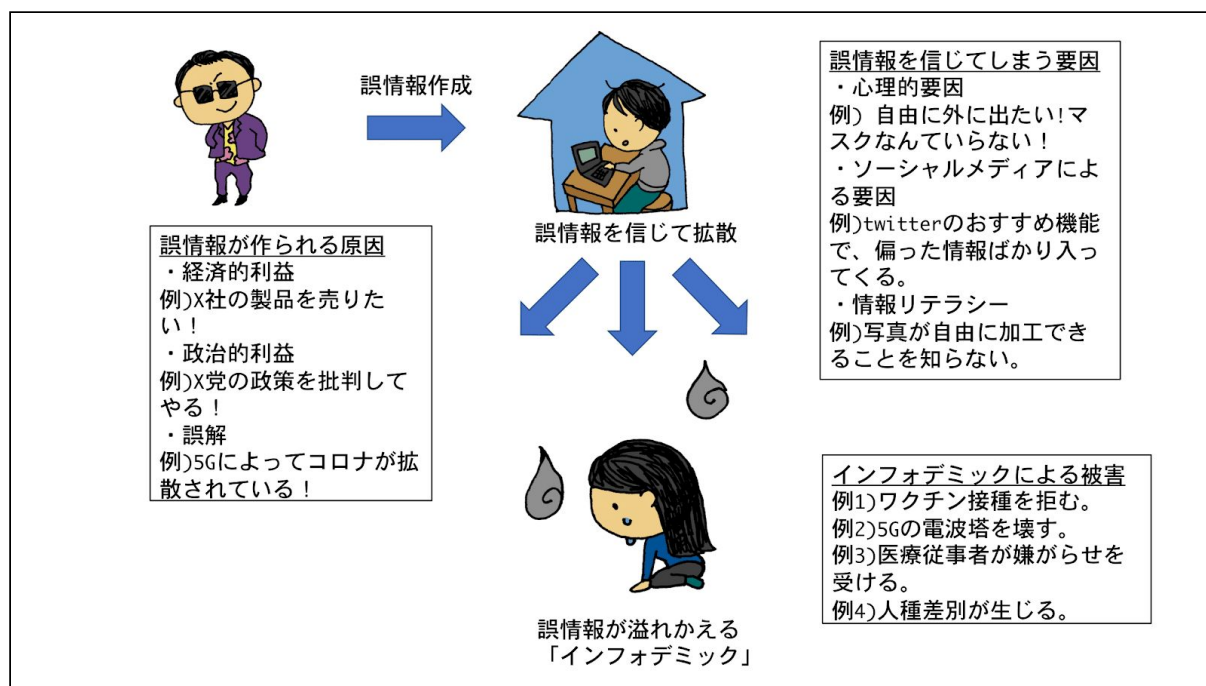
¹⁸ Vox “I was a conspiracy theorist, too” 更新日時:2020/5/15, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.vox.com/first-person/2020/5/15/21258855/coronavirus-covid-19-conspiracy-theories-cancer>

¹⁹ WHO “Saad Omer - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

²⁰ WHO “David Nabarro - Headline talk at First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://youtu.be/DD851DMDRG8>

²¹ WHO “Saad Omer - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

人は自分と異なる意見に接したときに、これまで以上に強く自分の持つ意見に固執してしまう傾向があります²²。このような現象を「バックファイア効果」といいます。



2-2 ソーシャルメディアによる要因

1)エコーチェンバー（反響室²³）現象

ソーシャルメディアでは、単一あるいは狭い情報源やコミュニティからの情報にのみ触れ続けることにより、特定の意見や思想が増幅されることがあります²⁴。こうした現象を「エコーチェンバー」²⁵とといいます。例えばtwitterでは自分と意見が近いアカウントのみを選んでフォローすることができます。自分の意見が他の人に支持されたり、賛同できる意見ばかりの環境の中では、自分の意見の正しさをより強く信じ込みやすくなるでしょう。

2)フィルターバブル

ソーシャルメディアでは、検索履歴や閲覧履歴が深層学習によって分析され、利用者の好みに合う情報だけが提示されるようになり、好みに反する情報が自動的に遮断されることがあります²⁶。こうした現象を「フィルターバブル」といいます。twitterでおすすめのアカウ
ントの表示機能などはこれにあたります。

3)極端な意見は目につきやすい

²² WHO “Saad Omer - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

²³ 研究論文の多くは「エコーチェンバー」とそのまま表記しています。あえて訳す際の訳語はまだ定まっていませんが、「反響室」や「共鳴室」と訳されることがあります。

²⁴ WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://youtu.be/e2mSnH7Xzgs>

²⁵ 日本はこの「エコーチェンバー」度が比較的高い、という調査結果があります。cf. 木村 忠正(2020)「マスメディア社会からポリメディア社会へ」マス・コミュニケーション研究、97巻、pp. 65-84 https://doi.org/10.24460/mscom.97.0_65

²⁶ WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

ワクチンに反対する理由には様々なバリエーションがあります²⁷。例えばワクチン陰謀説でも、「ワクチン接種によって常時行動を監視するマイクロチップを埋め込まれる」や「子供が産めなくなる成分が含まれている」など様々です。これに対してワクチンを支持する理由は科学的事実から引き出されたものなので比較的似ています。これによって、反ワクチンクラスタ(ワクチンに対して反対している人の集団)は陰謀説の細かなバリエーション一つ一つに対応して多くの小さなクラスタに分割される傾向がある一方で、ワクチン支持クラスタは比較的少数の大きなクラスタにしか分割されません。

こうしたクラスタの特徴は、ソーシャルメディア上では特に影響が大きくなります。例えばフェイスブックではページを中心としてクラスタを形成します。このとき、反ワクチンクラスタ全体の人数は、ワクチン支持クラスタよりも少ないにも関わらず、反ワクチンクラスタはワクチン支持クラスタよりも多くのページを持つということが生じます。これによって、反ワクチンクラスタのページの方が無党派(ワクチンに反対も支持もしていない集団)の目につきやすくなり、無党派を取り込んでいくという現象が生じます。

4)高度に組織化されたクラスタ

ネット上には、悪質な情報を発信することに特化したアカウントが多数あります。それらはばらばらに点在しているのではなく、誤情報を拡散するアカウント同士がよく組織されたネットワークを構成しています²⁸。こうしたクラスタはCOVID-19の流行以降に突然現れたわけではなく、ニセ科学や陰謀論を支持していた既存のコミュニティを母体としています(例: anti-vaxxやQAnon)。彼らは、COVID-19に関するニュースに対して、彼らのイデオロギーに即した解釈を加えて発信します²⁹。もともと政治的メッセージを打ち出していたアカウントが、そのまま看板を掛け替えてCOVID-19ニュースアカウントに転身するケースも見られます³⁰。

5)巧妙な誤情報発信者たち

インフォデミックは、その名(インフォメーション+パンデミック)のとおり、しばしば疫学的な比喻によって説明されます。しかし、インフォデミック対策では、悪質な情報やネットワークを「意図的に」運用する行為主体も相手にしなければならない、という点に注意が必要です³¹。彼らは、情報リテラシーの比較的低い相手を「狙って」誤情報を伝えようとしますが、意識を持たないウイルスはそんなことをしません。インフォデミックと疫学の違いは意識されるべきでしょう。

6)繰り返されるネガティブ・キャンペーン

WHOなどの健康機関に反感を持ったコミュニティは、COVID-19流行よりもずっと前から形成されており、しばしばそれらの機関に対するネガティブ・キャンペーンを展開してき

²⁷ Johnson, Neil F., Nicolas Velásquez, Nicholas Johnson Restrepo, Rhys Leahy, Nicholas Gabriel, Sara El Oud, Minzhang Zheng, Pedro Manrique, Stefan Wuchty, and Yonatan Lupu (2020) "The Online Competition between pro- and Anti-Vaccination Views." *Nature* vol. 582, no. 7811, p. 230–33.

²⁸ WHO "Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June"

²⁹ WHO "Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June"

³⁰ WHO "Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June"

³¹ WHO "Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June"

ました。彼らはCOVID-19に関しても、同様のネガティブ・キャンペーンを行っています。そうしたキャンペーンの分析も、インフォデミック対策を練るためには必要です³²。

7)モデレートされていないソーシャルメディアから誤情報が拡散する

ソーシャルメディアの中にはモデレーション(ふさわしくない記事、ユーザーを公開禁止にしたり、検索にかかる順位を下げたりするなどの処理をすること)に十分に投資しているものとそうでないものがあります。

COVID-19の誤情報は、4chan,Gab,VKontakeなどのモデレートされていないプラットフォームを利用する過激派および極右のコミュニティの中で多くの場合形成されます³³。こうしたコミュニティはCOVID-19を利用して、人種差別など悪意のある誤情報を広めています。例えば、「ユダヤ人や移民を、ウイルスを作った、広めた」や、「コロナウイルスは、『ディープステイト(アメリカ合衆国を影で操っているとされる闇の組織。陰謀説の一種)』によって使用されている兵器で人口成長をコントロールしようとしている」などの誤情報が作られています。

COVID-19のような肺炎に似た症状については2019年12月時点で4chanで議論されていましたが、こうした情報が他のソーシャルメディアにリンクを貼るという形で拡散していきましました。このリンクを辿って、逆に、フェイスブックのような十分にモデレートされているプラットフォームから、4chanのようなモデレートされていないプラットフォームにユーザーが吸い込まれていくということが起きています。

2-3 情報リテラシーの問題

1)情報リテラシー

インドネシアは1998年に民主主義化し、その時から初めてインターネットから自由に情報が手に入れられるようになりました。しかし、市民の情報リテラシーが非常に低く、例えばネット上の写真は加工できるということも知らない場合が一般的です³⁴。インドネシアでファクトチェック機関を立ち上げたハリー・スーフアミ氏は、誤情報によって正しい判断ができない市民によって、民主主義が成り立っている事態を懸念しています。

2-4 その他の理由

1)宗教

コロナ下の生活様式についての勧告はその国ごとの文化に合わせる必要があります³⁵。例えばムスリムの人たちの一部はお酒を飲むことができないことを非常に厳密に守っているため、消毒用アルコールにも触ることができません。こうした文化的背景に合わない勧告は伝わりにくい場合があります。

³² WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

³³ WHO “Neil Johnson - keynote talk at opening plenary, 30 June, First WHO global infodemiology conference” youtube, 更新日時:2020/7/2, 最終アクセス日:2020/10/31, https://www.youtube.com/watch?v=hW5-eIP2VL0&feature=emb_logo
nature “The epic battle against coronavirus misinformation and conspiracy theories”

³⁴ WHO “Harry Sufehmi - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31, https://www.youtube.com/watch?v=IBOqcytz54Y&feature=emb_logo

³⁵ WHO “Catherine Gicheru - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31, https://www.youtube.com/watch?v=LyaarghKsWE&feature=emb_logo

2) 伝統的習慣

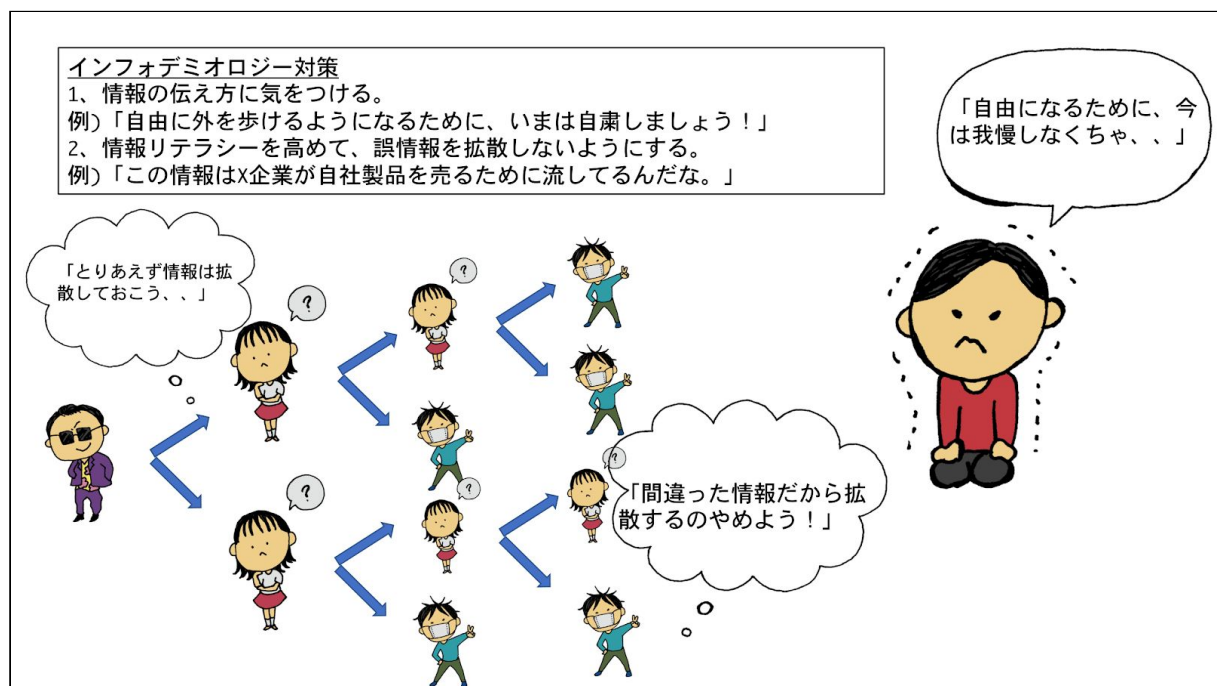
マダガスカルの大統領はコロナ対策としてオレンジや生姜を食べるように勧告し、また伝統的薬草治療である「COVID-ORGANIC」を学校の子供達に飲ませています。こうした新薬は原則として治験を行った上で用いるべきであるにも関わらず、推奨してしまう理由の一つには、マダガスカルでは伝統的治療法として薬草治療が一般的で、馴染みがあるということがあります³⁶。

3) 報道機関の経済的問題

現在アフリカ各地のニュースメディアが経済難に陥っています³⁷。これはコロナ下の不景気によって、政府や、企業からの広告収入がなくなったためです。こうした中で、経験の少ない若手の安価なジャーナリストを採用し、一方、他のスタッフには職場に来ないように命じるといったことが起きています。この結果、人員不足が問題となっており、ニュースメディアが誤情報を先取りして修正するという役割が果たせなくなっています。

3 インフォデミオロジー：インフォデミックにどう対抗するか

前章ではなぜ誤情報が生じてしまうのかについて様々な要因を紹介しました。現状これらの要因全てに対して、必ずしも良い解決策が提案されているわけではありませんが、現時点で提案されている誤情報への取り組み方を紹介します。



3-1 情報の伝え方

1) 「正しい情報」をそのまま伝えればよいというわけでもない

³⁶ WHO “Catherine Gicheru - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

³⁷ WHO “Catherine Gicheru - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

詳細はこちらを参照。

DW “Africa's media hit hard by COVID-19 crisis” 更新日時:2020/5/14, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.dw.com/en/africas-media-hit-hard-by-covid-19-crisis/a-53427253>

たとえば、正しい情報を伝えると、誤った情報は修正されますが、ワクチンの副作用を怖がるようになってしまう、といったことがあります³⁸。「事実(fact)」はもちろん大切ですが、事実がひとりでインフォデミックを治してくれることはありません。WHOなどが専門家たち(=正しい情報、事実)とデマを信じる人々との間に入って、正しい情報が届くようにする必要があります³⁹。

また、メッセージを伝える際の強調点を工夫することも有効です。たとえば、自由の価値を重視している人に対しては、ただマスクをつけ、行動に気をつけるように言うのではなく、マスクをつけ、行動に気をつけることで「自由が得られる」ことを強調する方がよいでしょう。

2)ただ否定するのではなく、根拠を付け足す

誤った情報を否定した後には、その根拠をきちんと付け足すことが大切です。そうすることで、バックファイア効果(自分と異なる意見に接したときにより自分の意見に固執するようになること)を避けることにつながります。

3)対話相手のメンツを大切にす

異なる意見をもつ人々に意見を変えてもらうには、彼らの「メンツ」に配慮することも重要です。誰だってメンツを失ったり、屈辱を感じたりしたくはありません。人が立場を変える時とは、たいてい「自分だけが立場や意見を変えさせられたのではなく、相手も一緒に立場や意見を変えるのだ」と感じた時です。対話相手に、意見を変えることが「不愉快ではない」と感じさせるような対話の仕方を工夫することは有効でしょう⁴⁰。

4)規則正しいリズムでの情報発信

公衆衛生のための公的な情報発信者は、コミュニケーションの規則正しいリズムを保つことが大切です。つまり、一定の「リズム」でコンスタントな情報提供を続けるということです。同じメッセージを繰り返すことを恐れずに、温かくて心強い仕方での発信を続けることは効果的です⁴¹。

5)ソーシャルメディアの活用

インフォデミオロジーではソーシャルメディアの悪影響がしばしば取り沙汰されますが、じっさいはソーシャルメディアには良い面もあります。たとえば、“flatten the curve(感染者の増加を食い止めよう)”や“stay home(自宅にいよう)”といったハッシュタグが広く共有されるなど、公衆衛生に資するようなコミュニケーションが成功した例も確認されています⁴²。正しい情報にアクセスしてもらうためには、使える手段は広く使って、双方向的なコミュニケーションを試みるべきでしょう⁴³。

3-2 情報リテラシー

1)ファクトチェック機関をつかう

情報の正誤を判断するために、自分で情報の元のソースまで探していくことは非常に難しく、また時間もかかります。この場合にはファクトチェック機関をつかうことで、簡単に情

³⁸ WHO “Saad Omer - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

³⁹ WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

⁴⁰ WHO “David Nabarro - Headline talk at First WHO global infodemiology conference, 29 June”

⁴¹ WHO “David Nabarro - Headline talk at First WHO global infodemiology conference, 29 June”

⁴² WHO “Camille Francois - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June”

⁴³ WHO “David Nabarro - Headline talk at First WHO global infodemiology conference, 29 June”

報の正誤を判断できます。日本では、FIJ⁴⁴がありますが、世界のファクトチェック機関を統合的に検索できるデータベース⁴⁵も存在します。こうしたファクトチェック機関は

- ① 非党派性・公平性
- ② 情報源の透明性
- ③ 財源・組織の透明性
- ④ 方法論の透明性
- ⑤ 明確で誠実な訂正

を国際基準として定めており、機関が発信する情報ができる限り信頼できるものであるよう努めています。また機関がまだ確認していない情報についても、サイトから依頼することで、無料でファクトチェックをしてもらうことができます。

2)報道機関の責任：誤情報に積極的に関与する

報道機関は起こったことをただ報道するのではなく、悪質な誤情報に対し積極的に関与するべきだという考え方が最近ではスタンダードになりつつあるようです⁴⁶。たとえばイギリスの放送局であるBBCでは、誤情報の分析・対策を専門とする役職が設置されました⁴⁷。BBCの誤情報専門リポーターであるスプリング氏によれば、この役職の設置は2019年イギリス総選挙がきっかけでしたが、パンデミックが起こる直前だったので非常によいタイミングだったそうです。視聴者からのフェイクニュース報告メールが、調査のための貴重な情報源となっているようです⁴⁸（たとえば「このボイスノートが私のWhatsAppグループで大流行しています」とか、「誰かが私のコミュニティフォーラムでこれをシェアしてくれたんだけど、調べてくれないかな？」とか）。

3)誤情報にあらかじめ慣れておく

「インフォデミック」という言葉で表されるように、誤情報はウイルスに似ています。そこで、ウイルスに対するワクチンと同じものを、誤情報に対しても作るということが考えられます。

ここでケンブリッジ大学のある実験を紹介したいと思います⁴⁹。この実験では、被験者に「人間によって排出される二酸化炭素によって気候変動が生じている」という問題について、正しい情報(気候科学の領域でコンセンサスが取れている内容)と、カウンターメッセージ(オレゴン科学医学研究所という非営利団体が「人為的気候変動が生じている証拠はない」と主張し、31000人を超えるアメリカの科学者が署名した請願書を保持している。)の両方を流しました。この時、被験者集団は、もともとの気候変動についての信念を変えることはありませんでした。次に、別の集団に、あらかじめオレゴン科学医学研究所の署名につ

⁴⁴ FIJ, 最終アクセス日:2020/10/31, https://fij.info/?gclid=Cj0KCKQjwlvT8BRDeARIsAACRFiVue5wnOH4Is3lwxWQZelH7L7t5XUjyehYscIIKJHgNK_35IQmpkrlaArJ6EALw_wcB

⁴⁵ poynter, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.poynter.org/ifcn-covid-19-misinformation/>

⁴⁶ より最近では、アメリカ大統領選挙に際してのトランプ候補の発言に対し、ニュース番組が「確認されていない情報だ」といった注釈を加えて放送したことも話題となった。

⁴⁷ Media Voices Podcast “The BBC’s Specialist Disinformation Reporter Marianna Spring on proactively countering conspiracies”更新日時:2020/7/15, 最終アクセス日:2020/11/13, <https://voices.media/transcript-marianna-spring-specialist-disinformation-reporter-bbc/>

⁴⁸ Media Voices Podcast “The BBC’s Specialist Disinformation Reporter Marianna Spring on proactively countering conspiracies”更新日時:2020/7/15, 最終アクセス日:2020/11/13, <https://voices.media/transcript-marianna-spring-specialist-disinformation-reporter-bbc/>

⁴⁹ University OF Cambridge “Psychological vaccine’ could help immunise public against ‘fake news’ on climate change – study” 更新日時:2017/1/23, 最終アクセス日:2020/10/31, <https://www.cam.ac.uk/research/news/psychological-vaccine-could-help-immunise-public-against-fake-news-on-climate-change-study>

いて一部の署名が偽造されていることを話した上で、同じ実験をしたところ、気候変動が起きているとより強く信じるようになりました。

この実験結果を受けて、オーストラリアでは、あらかじめ誤情報に触れさせて、そのパターンを市民が知っておくことで、新たに誤情報に接しても騙されないようにするというプロジェクト⁵⁰が作られました。また、ケンブリッジ大学は誤情報のパターンを学ぶためのアプリを開発しました⁵¹。このアプリでは、プレイヤーが自ら悪意のある偽情報の作成者となります。そしてあたかも信頼できる情報であるかのようなフリをしつつ、フォロワーを増やしていきます。十分多くの人に誤情報を伝えられたら、ゲームクリアになります。このようにゲームを進める過程で、プレイヤーは様々な誤情報を生み出し、拡散するテクニックを学ぶことができます。

以下にWHOのカンファレンスで紹介されていた誤情報のパターンを7つ紹介します⁵²。

- 1、風刺やパロディ：危害を与えるつもりはないが、潜在的に騙してしまう可能性があります。
- 2、ミスリーディングな内容：問題をフレームするための情報をミスリーディングに使用する。
- 3、詐欺師：身分を偽って情報を流す
- 4、作られた内容：新しい内容は100%誤っており、騙し、危害を加えるために作られている。
- 5、誤った組み合わせ：見出し、絵、字幕が内容とあっていない。
- 6、誤った文脈：正しい情報を誤った文脈で流す。
- 7、操作された内容：情報、図が騙すために操作されている。

こうしたパターンを覚えておくことで、誤情報を正しく判断しやすくなります。

最後に

現在、多くの誤情報が流れており、単に多くの人々が騙されるだけに止まらず、健康被害や、暴力事件を引き起こしています。これらの誤情報が生じるのは、一部の悪意のある人や、過激な思想を持つ人たちが原因ですが、誤情報が拡散されている点については我々も知らず知らずのうちに手を貸してしまっている可能性があります。一人一人が、ソーシャルメディア上でも、実生活の会話でも、情報の正誤に対して社会的責任を持って確認し、伝達していくことを心がけることが大切です。

⁵⁰ The Conversation “Inoculation theory: Using misinformation to fight misinformation” 更新日時: 2017/5/15, 最終アクセス日:2020/10/31,
<https://theconversation.com/inoculation-theory-using-misinformation-to-fight-misinformation-77545>

⁵¹ Big Think “Cambridge scientists create a successful “vaccine” against fake news” 更新日時: 2019/6/26, 最終アクセス日:2020/10/31,
<https://bigthink.com/politics-current-affairs/cambridge-scientists-create-a-successful-vaccine-against-fake-news?rebellitem=1#rebellitem1>

このゲームは以下のURLのサイトからプレイできます。

<https://www.getbadnews.com/#intro>

⁵² WHO “Claire Wardle - preconference event, First WHO global infodemiology conference, 29 June” youtube, 更新日時:2020/7/1, 最終アクセス日:2020/10/31,

https://www.youtube.com/watch?v=j1G5B8j5UG8&feature=emb_logo